



学生に聞きました!
講義・大学・将来の夢

林田 昭大さん(左)

人間科学部人間科学科1年生
この学部を選んだのは、人間自体に昔から関心があり、文理を問わずさまざまな観点から学べるのが魅力だったからです。前回も今日の授業も、世の中で言われていることを踏みみにするのではなく、批判的な視点を持つことが大切であると語られました。自分一人では浮かばない発想を、いろんな先生から学べるのがこの学部の良いところだと思います。将来は何かしら教育に関する仕事に就きたいと考えています。

中野 春子さん(右)

人間科学部人間科学科1年生
他の国の文化や物語が幼い頃から好きで、とくにドイツの歴史に興味があります。昨年、アメリカのアイダホ州に留学して、日本人との考え方の違いを感じました。高校までは正解がある問題ばかりを勉強してきましたが、この学部で学ぶのは、答えのない問題ばかりで、それが面白いと感じています。将来は大阪にある国立民族博物館のような場所で、いろんな国のかなを伝える仕事ができたら嬉しいなと思っています。

大阪大学

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
大阪大学教育推進部入試課
電話: 06-6879-7097
メール: gakusei-nyusi-dai@office.osaka-u.ac.jp

[沿革・歴史]	
1838年	適塾創設
1931年	医学部と理学部の2学部からなる我が國6番目の大阪帝国大学創設
1933年	工学部設置
1947年	大阪大学と改称
1949年	学制改革により理・工・文・法経の5学部を設置一般教養部設置
1951年	歯学部設置
1955年	薬学部設置
1961年	基礎工学部設置
1967年	大阪大学医療技術短期大学部設置
1972年	人間科学部設置
1993年	医学部保健学科設置
2004年	国立大学法人に移行
2007年10月 大阪外国語大と統合し、外国語学部設置	

イベント情報

○オープンキャンパス

2016年8月4日(木)~8月19日(金)にかけて、吹田キャンパス、豊中キャンパス、箕面キャンパスで各学部ごとに実施。事前の参加申し込みが必要となります。各日程の確認、参加申し込みは大阪大学オープンキャンパスの案内ホームページで。

取材担当記者より
大阪大学
こんな大学でした!

「パワーポイントを使うと学生はすぐに眠くなります。私は学生たちに講義を“聴いて”ほしいんです。ノートも取らなくてかまいません。私の話す姿から、何かを感じてほしい」という小野田先生。その講義はまさに「プロの語り」でした。学生時代にこんな先生に教わりたかった!



先生のご紹介
小野田 正利先生

大阪大学大学院人間科学研究科教授。教育学博士。1955年愛知県生まれ。名古屋大学大学院教育学研究科単位取得満期退学。1984年より長崎大学教育学部講師、助教授を経て、1997年大阪大学へ、専門は教育制度学、学校経営学、フランスの教育制度に関する「教育参考と民主制」の研究で、日本教育経営学会賞(1997年)を受賞。



大阪大学 人間科学部

本日の講義 人間科学概論

講義の流れ

人間科学部では、多様な学問領域を行き来しながら、人間と人間が営む社会をさまざまな観点から研究する。この講義では人間科学の入門として、学びの技法や「人間科学とは何か」を知るとともに、批判的考察や研究の方法、発表の仕方を学ぶ。

醍醐味

「Living together(共生)」をキーワードに、人間科学部のさまざまな分野を研究する教授陣が同時に教壇に立ち、「かけあい」を行なながら講義を行っていく。



今から1時間、この教室は『なんばグランド花月』になります、そこの教室中に宣言して講義を始めた小野田先生。舞台衣装というピンクの花柄ジャケットは、「布屋で買った三千円のカーテン生地を、7万円もかけて仕立ててもらいました。ほかにもハイビスカス柄など8着あります」という。まるで吉本の芸人のような語り口に、学生たちの笑いが止まらない。そんなユニー

個人の価値観と人への思いやりをベースに クレームを学問する!

クレーム学の重要性が高まったのは、この20年の間に、世の中のクレームに対する意識が明らかに変化したからだと小野田先生は言う。「先日、買ったカップアイスには、溶けた状態で傾けるとアイスがこぼれます」『長く持つていると手が冷たくなります』と注意書きがありました(笑)。当

たり前だよ!」と思うでしょう。でもメーカーがわざわざそれを書くといふことは、クレームをつけられる人がいるからなんです。クレームが理不尽な「いちやもん」か、検討が可能な「要望」かの判断は難しいと小野田先生は言う。例えば「こんな事例があった。「ある

たのか、考査を語った。「かつての大坂大学人間科学部の標語は、『サルからサルトルまで』でした。つまり自然科学から哲学まで、文理の枠にとらわれず、総合的に人間を研究するのがこの学問の面白さなんですね。二人がそれぞれの行動の研究を専門とするの学問で、中道正之先生と、教育心理学の岡部美香先生だ。二人がそれぞれの観点から、なぜ「オオカミが人の子を育てる話」が世界中に広まっ

クな今日の講義テーマは「クレーム多発時代を生き抜く人生3割はクレーム対応」というシリーズな内容だ。小野田先生はもともと教育制度を専門とする研究者。20年ほど前に教員と保護者間でトラブルが激増していることに関心を抱き、日本で

何とけつないな研究、と思われるかもしれないが、実はクレームは専門家だ。「学校へのいちやもん」の講演依頼が殺到する「学校へのいちやもん」のメンバーや加わり、この10年で5回も大きな科

学研究費が採択されました。初めて学校現場のクレームを具体的データを元に検証して発表した。それ以来、教育現場や企業に心理・福祉・法律・医学・工学など多数の研究グループの35名のメンバーには、教育学の他